

会員ミニ情報

■岩崎英二郎氏が日本学士院会員に選ばれました。

12月12日、日本学士院(市古貞次院長)はドイツ語学の岩崎英二郎氏(慶応義塾大学名誉教授・湘南日独協会会長)ほか8名の学者を新会員に選びました。おめでとうございます。

■松野義明氏 ドイツ連邦共和国から受賞

12月19日、松野義明氏(元日本原子力研究所勤務・湘南日独協会理事)はドイツ大使館においてケストナー駐日ドイツ大使よりドイツ連邦共和国功労勲章一等功労十字章を授与されました。



ケストナー大使より受勲する松野氏

受賞理由の要旨

★松野氏は日本原子力研究所及び動力炉核燃料開発事業団における勤務を通じユーリッヒ並びにカールスルーエ研究センターをはじめドイツ人研究者と密接な協力を行い、その結果ドイツの安全基準が日本の原子力発電所に導入されることとなった。★日本科学技術国際交流センターの常務理事として松野氏はヨーロッパの若い研究者の奨学金制度に貢献した。★独日ハイテク環境技術協力評議会への間断ない支援により松野氏は明日の両国科学技術協力のための更なる機関を作り上げようとして取り組んでいる。※この欄への情報をご提供下さい。

湘南日独協会 2001 年度活動予定

■3月24日(土) 13:30～

講演会 「幕末日独交流史余聞

——シュネル兄弟の事績」

講師 廣川貴男氏(湘南日独協会会員)

会場 ホテル法華クラブ藤沢2F ロータスホール

■4月28日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2F ローズルーム

■5月26日(土) 14:00～16:00

演奏会 「ドイツ歌曲の午後」

演奏 梶井龍太郎・梶井智子氏 他

会場 鎌倉商工会議所地階ホール

■6月23日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2F ローズルーム

■7月28日(土) 「ドイツフェア」 18:30～

会場 湘南ホテル

■8月25日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2F ローズルーム

■9月22日(土) 13:30～

講演会 未定

会場 ホテル法華クラブ藤沢2F ロータスホール

■10月27日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2F ローズルーム

■11月24日(土) 13:30～

講演会 未定

会場 ホテル法華クラブ藤沢2F ロータスホール

湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL 3 . NO. 1 . 通巻13. 発行 2001. 1 . 27.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0055 藤沢市南藤沢8-9 中丸ビル2F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

No. 13.

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

湘南日独協会 第13回例会

講演会

演題 「芭蕉とゲーテ」

講師からのメッセージ

芭蕉自身の中に、日本的なものと世界的なものがあります。まずその点を一緒に考え、ついで芭蕉とドイツの詩人ゲーテとの、共通点と大きなちがいを申し述べようと思います。

講師 小塩 節氏(フェリス女学院学院長)

日時 1月27日(土) 13:30～15:30

会場 ホテル法華クラブ藤沢2F
ロータスホール

湘南日独協会 第3回定例総会

湘南日独協会は創立2周年を迎え、この新年より3年目の活動を始めることになります。1月27日の例会終了後、同じ会場で引き続き定例総会を開催します。会員の声で始まったドイツ語講座も定着してきました。会員各位の創意で今年をさらに有意義な年にしようではありませんか。

クライナー氏の講演要旨

「近代のドイツ精神史 および 文化史における日本」

【その1】

歌劇「魔笛」の第一幕、タミーノが岩の上に現れる
場面で、タミーノに日本の狩衣を着せるようにモーツ
アルトは自筆で指示しています。昨年の九月、湘南日
独協会の松野さんがボンの私の家を訪ねて下さったと
き、どんな経路でモーツアルトは日本を知っていたの
だろうかと云うことが二人の話題になりました。それ
が今日のお話の出発点となったわけです。

モーツアルトは単なるエキゾティズムで指示したの
でしょうか、それとも何か書物を通して日本を知って
いたのでしょうか。私は文献で調べてみました。中部
ヨーロッパのドイツ語圏つまり神聖ローマ帝国は日本
とは直接的な関わりは持っていませんでしたが、間接
的には非常に深い関係があったことが分かりました。

16世紀、ドイツ帝国の皇帝は代々ハプスブルグ家
から出ていました。しかし、当時のハプスブルグ家の
皇帝カール五世は今のブリュッセルにほど近いгент
という町の生まれで、ドイツの皇帝になる前に実はす
でにスペインの王になっていたのです。約500年前の
ことですが、カルロー世として「太陽の沈まない帝国」
の頂点に立って、ドイツはもちろんイタリア、スペイ
ンを支配し、息子のフィリップ二世の代になるとポル
トガルを手に入れ、アメリカ、アフリカ、インド、東
インド、マカオ、フィリピンなども支配下に収めまし
た。しかし、フィリップの支配のとき、スペインは100
年以上も続いた戦争のため、国土も経済も疲弊してし
まいました。その時、スペインはドイツのアウグスブ
ルグのフガからお金を借りました。その借金の抵当が



講演するクライナー教授

日本との貿易でした。二年間にわたりフガは、日本と
の貿易による利益全部をスペインから吸い上げ、アウ
グスブルグに流しました。

一方、フィリップ二世の地図係アブラハム・オルテ
リウスは世界で初めて地図帳を作り、それまでポルト
ガルやスペインが独占していた日本に関する知識が全
部その地図帳に書き込まれ、誰の手にも入ることにな
りました。当然その知識はオランダにも流れ、その知
識を元にオランダはスペインと競争状態に入ること
になります。オランダは当時まだ神聖ローマ帝国の一部
でしたが、反乱を起して、1648年に独立国家となり、
ハプスブルグ家の支配から脱します。 今年には日本でも
オランダでも修好400年記念を祝っていましたが、
実は、当時まだオランダという国は存在しなかったの
で、これはドイツと祝うべきだったのです。有名なエ
ンゲルハルト・ケンペルはそのことに気付いていま
す。家康が駿府でオランダ人に渡した許可証には、
「オランダの船々が日本の津々浦々に寄るとき…」と
日本語で書いてありますが、ケンペルが英訳した文章
では、All German ships coming to my country…と
なっているのです。多分これは当時の通訳の間違い
だったのでしょう。

このように考えてみますと、既に16世紀にはドイ
ツと日本とは間接的ではありますが、いろいろな関係

があったということが分かります。そして、イエズス
会の神父が日本での活動状況をラテン語で書いた「年
報」(カルタス)は、直ちにバイエルンのドナウ河畔
の修道院でドイツ語に翻訳され、ドイツの反宗教改革
運動に大いに利用されました。例えば、時代は少し遡
りますが、ウィーンのある神父は1680年代に、ウィ
ーン方言でカトリックからプロテスタントに転じた人々
を激しく避難する有名な説教をしたのですが、その時
彼は度々日本の話題、例えば、高山右近、大友宗隣、
ティトウス・レディ・豊後などの宗教心の篤さを話題
として採り上げているのです。

オランダは独立しても国が小さく、山がないし、
従って木材もない。一艘の船を建造するために平均
2000立方メートルの樫の木が必要です。そのような
船の寿命は平均10年、毎年船の需要は増加の一途を
辿るとなれば、どこからその木材を入手するかが重要
な問題になります。答えはドイツのシュヴァルツヴァ
ルト(黒い森)でした。ボンの近くにあるケーニヒ
スヴィンターというところの郷土博物館に行きますと
筏の模型があります。この筏は実際には500メートル
位の長さで、その上に家を造って船主が住み、400～
500人の森林労働者を従えて、オランダまで流して
いったのです。そして、彼らはオランダで当然不思議
な東洋の話、日本の話を耳にすることになります。当
時、東インド会社では、毎朝新しくできた船の乗組員
を募集していましたので、皆先を競って応募する。そ
して日本へ行く。日本に行っても4人に1人ぐらいし
か帰ってこない。しかし帰ってきた人が日本見聞録を
書くと人々が又それに刺激されて日本へ行きたがる。
その数があまりにも多いので、地元の共同体はそれを
押さえようとした。今でもウルムの市議会には、ウル
ム出身の筏の男が書いた本の出版を不許可にした記録
が残っています。(以下次号)

★2000年10月28日第11回例会より

★ヨーゼフ・クライナー博士はボン大学教授